

南方を 駆け抜けた 群像

2014.4.26(sat)
14:00-17:00@GALA

文化結社トカラ塾 第24回南島学らいぶとーく

太平洋戦争後、大陸や南方の戦場から引き揚げてきた兵士や軍属の回顧談、「王道楽土」の夢破れてからも舞鶴に辿りついた民間人の逃避行は、いわゆる戦記物として数多く出版されている。

しかし、明治の初年から個人として南方に「雄飛」した人たち、あるいは植民の名のもとに集団移住した人たちに光が当てられることは少なかった。

明治維新以来、近代化の歩みのなかで発展を遂げてきた日本の歴史の影に、「南進」のスローガンに踊らされ、人生を翻弄された有名無名の人たちがいた。「南洋探検」の著名人には田口卯吉（『日本開化小史』、南洋商会）から始まって、鈴木経勲（『南洋探検実記』）、菅沼貞風（『平戸貿易史』）などがいる。

南方志向には「殖産興業・富国強兵」に背を向けた遁世派もいる。中島敦（文学者）や土方久功（美術家）である。あるいはまた、原地民（南洋土人！）と結婚し島の人となった森小弁（1930年代後半のベストセラー漫画『冒険ダン吉』の主人公に擬せられた）、クリスチャンの開拓伝道師、梅森豪勇などもいる。意思など無縁に渡った「からゆきさん」の存在も忘れられない。

南海に生き、消えた多様な姿に思いを馳せると、そこに残影を越えた「南への夢」が浮かび上がり、現代に重なってくるようだ。

[講師]

沢株正始

(編集者)

講師の沢株さんは函館育ち、南への憧れは編集者（岩波書店）の忙しい職務から、南方関連書物の探索へと向かった。そしていつの間にか個人蔵としては比類を越えた収集を実現させた（明治以降、南方関係書の発行数はおおよそ5000冊。書誌情報として貴重なのが『大東亜資料総覧』（天野敬太郎編、昭和19年）と『南方書の研究と解説』（遠藤書店編集部、昭和17年））。

南方関連本も数多く手掛け、その大きな企画には『講座・東南アジア史』（全10巻）、『福沢諭吉書簡集』（全10巻）などもある。

会費

カンパ制（任意）

場所

ギャラリー GALA

世田谷区梅ヶ丘1-26-5-2F(小田急線梅ヶ丘駅南口徒歩1分)

<http://www.gala-fudoki.com/>

参加
連絡

090-4713-1299（稲垣一雄）

080-5085-2477（橋爪太作）

info@tokarajuku.sakura.ne.jp

主催

文化結社トカラ塾 (<http://www.tokarajuku.sakura.ne.jp/>)

